ISSN 0915-3284

東京大学史史料室ニュース

第32号　2004・3・31

目　次

第一高等学校の史料について ……2
「大学の自己点検評価」調査研究プロジェクトについて ……4
受贈図書一覧 ……6
東京大学史史料室ホームページのご案内 ……7
史料室日誌抄録 ……8

帝国大学医科大学医学科の卒業記念写真

名古屋在住の富田洋・富田武両氏から東京大学史史料室に寄贈を受けたもの。明治24年に帝国大学医科大学医学科に入学した両氏の祖父富田忠太郎（写真の右端上段）が、大学卒業記念の写真として所蔵していたものとされる。写真には、富田をはじめ明治28年12月の卒業試問を完了した者らが写っている。『東京大学卒業生氏名録』（昭和25年）などによれば、富田らは明治29年７月卒業（前年９月ヨリ此年３月迄ノ間ニ於テ卒業シタル者）とある。卒業生とともに、医科大学学長の小金井良精や内科学を担当したE.Baeltzや外科学を担当したJ.Scribaら医科大学の主要な教員スタッフの姿も見られる。写真の人物名を記した貼付紙には、「明治二十八年六月於医科大学鉄門内時計台横庭」と記載されているが、服装の様子や草木の状態などから推察すると、撮影時期は明治28年６月ではないように思われる。

第一高等学校の史料について

奥田　教久

第一高等学校（一高）は通常、明治７年（1874）12月、東京外国語学校の英語科を分離して設立された東京英語学校をもってその起源とする。授業は翌８年１月から一ツ橋の仮校舎で開始され、10年（1877）には開成学校予科と合併して東京大学予備門となった。さらに、19年（1886）、中等学校令の公布とともに第一高等中学校と改称、22年（1889）２月、神田一ツ橋から本郷向ヶ岡弥生町に移転、翌23年３月、新寮が落成、木下廣次（ひろじ）校長が従来の兵舎的取締りを改め寄宿寮の自治を許すと宣言、学校と自治寮の一体化が成立した。27年（1894）高等学校令の公布で第一高等学校と改称、昭和10年（1935）９月、駒場へ移転したが、戦後、拙速の学制改革の大波に呑みこまれ、同25年（1950）一高は廃校となった。

第一高等中学校から廃校までの約60年間に一高が世に送り出した有為の人材は２万名を超えた。

以上のような一高の変遷の実態を調べる上で、極めて重要と思われる代表的史資料につき、簡単に紹介したい。(以下西暦の併記は省略)。

１.東京英語学校、東大予備門時代の学校諸規則（M８東京英語学校諸規則、M13, M14 東京大学予備門学科撰定規則、 M17 司法省法学校正則科一覧、M17.6 東京大学予備門学科課程、M17.6 東京大学学寮仮規則、M16.6 官立駒場農学校規則 ほか）

第一高等中学校以前の諸学校の学校諸規則の合本である。断片的だが、いずれも貴重な文献である。

２.第一高等（中）学校一覧（M19～S15）

M19からS19まで毎年度、学校が発行した。学校の沿革略、高等学校関係法令、学科課程、教授時間数、生徒心得、保証人、授業料、成績考査、懲罰、退学、服制、寄宿、通学、寄宿料、食費など一高の学制及び校務分担、教官分担などの学校細則、職員生徒氏名などを載せている。このうち「沿革略」は学校の略史を毎年逐次書き足してまとめたものだが、例えば「明治38年６月東京府士族狩野亨吉（こうきち）ノ寄付ニ係ル寄宿舎114坪５合ヲ本校維持資金ニ編入セラル」という記述がある。狩野野校長が私財を投じて学校に朶寮（だりょう）（乃木大将に因み命名）を寄贈したことを伝える記事は、この「学校一覧」の外にはない。

３.第一高等学校六十年史（S14. 3 発行）

一高創立60周年記念事業として学校が刊行した。執筆は藤木邦彦（当時一高講師、のち東大名誉教授）、峰岸義雄の両氏で、学校がまとめた唯一の歴史書であり、東京英語学校以来の法令、通達、学科課程などの詳細を記しているが、この本の最も注目すべきは木下校長が明治21年８月、第一高等中学校教頭として赴任して間もなく、全生徒を集めて行った演説の全文である。ごく一部を要約紹介すれば、「第一高等中学校の生徒は将来、社会の上流に立ち学術・技芸・政治など各界の先達として日本を指揮すべき人々だ。その品行は端正に、志は高尚にして他の青年の模範ともなるべきは当然。然るにいま、社会は諸君に何の尊敬も払わず、諸君が大学に入り易いという一点だけで他と区別している。現在日本人はみな自重自敬の精神乏しく卑猥無作法の風が諸君を取り巻いている。校外一歩外に出れば皆敵、高等中学は籠城なりとの覚悟が必要である。それには寄宿舎が必要で、今後は生徒全員寄宿としたい」

４.向陵誌

「向陵」とは「向ヶ岡」を漢詩風に読み変えて、一高生自身が「一高とその寄宿寮」を呼ぶいわば通称である。駒場に移転してからも変わらなかった。「向陵誌」は一高の寮の正史とされ、発行者は第一高等学校寄宿寮である。大正２年に第１回（初版）刊行、大正９年、同14年、昭和５年、同12年の５回刊行された。昭和12年版は２巻に分冊、本郷全史がこれで完結した。その後、一高同窓会が昭和59年にこの12年版を復刻刊行し、さらに駒場移転から廃校までの駒場の歴史を記した「向陵誌・駒場編」とその別冊「一高応援団史」を同時に刊行した。向陵誌は「自治寮略史」と各運動部や文芸部、弁論部などのほか基督教青年会、短歌会、射撃会などの部会史で構成されている。部・会の数は70近くあった。向陵誌は本郷編２巻、駒場編に応援団史を加えると実に4,800ページにもなる。特に本郷編の「自治寮略史」は学期ごとに新たに選出される寮委員が書き足して行くので、通読は容易ではない。そこで平成６年に後記の「第一高等学校自治寮六十年史」が最終的な正史として新たに刊行された。

５.写真図説「嗚呼玉杯に花うけて」（S47発行）

「第一高等学校八十年史」の副題がついている。一高同窓会が協力し、講談社が出版した。豊富な写真を集めた大型判で、眺めるだけでも興味深い。

６.一高応援団史（S59発行）

向陵誌・駒場編の別冊として一高同窓会が発行、本

稿の筆者が執筆した。運動部、対校競技、応援団の歴史を軸とし、自治寮一般の通史をも念頭に置いてまとめた。一高の良い点も悪い点もそのまま書いた。自治寮発足の背景、イムブリー事件、ストーム、魚住影雄の全寮制反対に対する非難と魚住の論駁、校風討論会、栗野転校事件、新渡戸校長弾劾事件と校長の弁明などを取り上げている。

7.第一高等学校自治寮六十年史（H6発行）

一高自治寮立寮100年記念事業として企画され、平成6年に刊行された。最終的正史の編集を企図した。本稿筆者を含む6名が分担執筆。主要な事件や問題の史料を発掘、見直しに努めた。“賄い征伐”の記録などは極めて珍しい。別冊の「年表」は特に利用価値がある。

8.校友会雑誌、護国会雑誌（M23.11～S19.6）

自治寮発足の明治23年の10月、生徒と教職員の会費徴収による校友会が発足した。会長は校長、目的は「文武の諸技芸の奨励」にあり、文芸部と、ボート部、ベースボール部等8運動部が創設され、文芸部は毎月1回「校友会雑誌」を発行配布することが義務づけられた。以来、昭和19年6月まで約380冊が発行された。戦時中発行の最後7冊は「護国会雑誌」と改称した。教官・寮生の論説、評論、研究、エッセイ、詩歌、小説から運動部の動向、対校戦戦績、総代会や行軍（発火演習）などが収められ、一高のみならず社会の動向を反映する貴重な文献として評価されている。現在ほぼ全巻を揃えているのは東大の駒場図書館である。日本近代文学館が八木書店に委嘱してDVD化する計画が進んでいる。

9.向陵時報、寮報（T11.6.1～S24.2.5）

大正期に入ると「校友会雑誌」の内容がしだいに文芸雑誌的になってきたという批判が高まり、同11年6月新たに寮内新聞として「向陵時報」が創刊された。その後も若干の波乱があり、同15年から昭和4年までには紙名を「寮報」と改称し、同5年から再び「向寮時報」に戻し、戦後24年2月5日号の最終号まで通算約210号が発行された。その収集は困難を極めたが、辻幸一資料副委員長の多年にわたる努力により不明・未回収を約10部までにこぎつけた。いずれも老朽化がはなはだしく、近く全体をマイクロフィルム化する予定である。

10.一高同窓会会報（T14.8.1～S18.7.10）

一高同窓会は現在、上記と同名のニュース・レターを毎月発行しているが、戦前の「会報」は雑誌形態で、同窓生の回顧談、評論、エッセイ、寮の動き、各地または産業別等の一高会便りなどを掲載。年2～3冊発行、全49冊が揃っているので、すでにCD-ROM化を完了した。

11.向陵駒場、向陵（S34.10～）

昭和32年12月、一高同窓会は教養学部修了生をも包含する新組織に改組し、会名を「向陵駒場同窓会」と改め、34年10月、同窓会誌「向陵駒場」を創刊したが、47年11月再び改組、会名も「一高同窓会」に戻し、同月15日発行の会誌から誌名を「向陵」とした。年2回発行、平成15年末現在、通算98冊に達している。本年秋、最終号発行の予定である。

12.卒業年次別文集（S55～H14）

一高入学または卒業から概ね50年を記念して学年ごとに文集を発行している。一番先に作られたのはS8入学の写真集で、以後は卒業50年記念の文集が多く、最終年度25年卒業の「嗚呼向陵 わがたましひの故郷」まで22冊になった。特に19年頃からの文集には戦中戦後の貴重な史料が多く含まれている。

13.寄宿寮委員会記録

寄宿寮委員が手書きで残した任期中の日誌である。「寄宿寮記録」「寄宿寮日誌」「寮委員記録」などとも呼ばれるが、毎週1回開く寮委員会、毎月1回開く総代会、全寮晩餐会、全寮茶話会等の発言記録を始め臨時委員会、各種集会、選手推戴式、校長訓辞や紀念祭、大掃除、偽一高生などの事件の記録等々、スピーカーもテープもない時代によくも書いたと感服せざるを得ない。合冊製本100冊以上あったと思われるが、その約1/3が行方不明になっている。

（参考）重要史資料の寄贈先

一高同窓会は早晩消えてなくなるので、特に重要な資料はコピーを作り、電子化するなどして、将来、保管と閲覧の便を図って戴ける複数個所に寄贈する方針をとってきた。その対象は次の通りである。
①東京大学駒場図書館 ②東京大学史史料室 ③国立国会図書館 ④旧制高等学校記念館（松本） ⑤東京都立中央図書館（広尾） ⑥大倉精神文化研究所付属図書館旧制高校文庫（東横線・大倉山）。ただし、最近⑤の都立中央図書館は「逐次刊行物は大学以上に限る」というルールを作ったとのことで、同じ都立の江戸東京博物館付属図書館（両国）に切り替えを検討しつつある。⑥の大倉精神文化研究所も財政難などで対象から外した。

（一高同窓会 資料委員長）

「大学の自己点検・評価の歴史的調査及び研究」プロジェクトについて

今泉　朝雄

1.本プロジェクトの意義

国立・私立を問わず、大学改革及びその具体的方策として「自己点検」「外部評価」の必要性が盛んに問われ、また実行されつつあるが、各大学が過去に取り組んできた自己点検に関する分析・評価を踏まえた上での議論というものは非常に少ないように思われる。いうまでもなく1970年代、それまでの大学紛争を背景に従来の大学における学問、教育の在り方、教師と学生との関係などが全面的に問われ、改革が行われてきた。現代において大学改革が再度求められているのならば、その前史としての1970年代における改革の内実を分析することは極めて重要な作業というべきだろう。

しかしながら、大学紛争への注目度に比べれば、その後の大学改革に関するデータは個人的に収集・管理された資料の断片的な集積にとどまっているのが現状である。その意味で、資料の系統だった保存や活用が組織の運営を効率的にするだけでなく、組織の自己点検・反省を行う上でもそれらの記録が非常に有益となろう。

以上のような課題意識のもと、当史料室では本年度より「大学の自己点検・評価の歴史的調査及び研究」プロジェクトを開始した。本調査・研究の意義としては以下の4点が挙げられる。

1）1970年代の大学改革は、新制以後の東大にとってもっとも大きな事象であり、これらを明らかにすることは社会に対する説明責任を全うすることになるであろう。

2）1970年代の大学改革は、制度、自治的慣行の全面的見直しを迫り、改革への本格的取り組みを戦後はじめてもたらした。この意味において大学改革の先駆的形態を明らかにするものである。

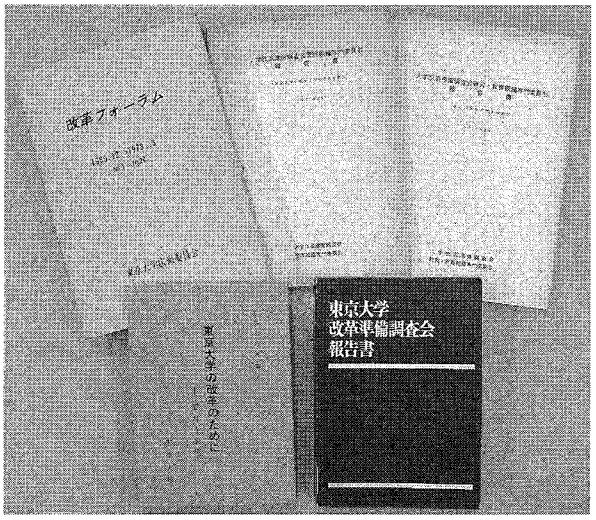
3）現在大学改革において焦眉の急を告げている大学の自己点検・評価もまた1970年代の本学の改革課題の一つであった。本学は紛争後に教官の自己規律専門委員会を置いた歴史的経験を持っている。その歴史的経験を明らかにすることが現在の課題をさらに鮮明化するであろう。

4）70年代の大学改革はすでに30年を経過しているため、関係者の高齢化と資料の散逸が進んでいる。早めに歴史的手法により、改革関係資料の保存と定着を図る必要がある。

なお、本プロジェクトは前任の故中野実室員時代に企画・検討されていたものであり、本史料室がこれまで取り組んできた「東京大学における学徒動員・学徒出陣に関する調査・研究」「新制東京大学成立に関する調査・研究」といった一連の大学史調査・研究プロジェクトの流れに位置付くものである。また、初代史料室長であった寺崎昌男氏は『プロムナード東京大学史』（195-196頁）において「沿革史はそれ自体として大学改革の検証史というものではないか」と捉え、「自己評価」の観点から東京大学史史料室の発展を熱望する旨を記していることから考えれば、本プロジェクトの趣旨は史料室開設当初からプランニングされていたといえるのではないだろうか。

2.大学沿革史における記述・資料収載

さて、東京大学における1970年代の大学改革、とりわけ審議組織の動向について簡単に眺めてみると、1964（昭和39）年に設置された「総合計画委員会」において先駆的に審議されていたが、総論的な検討作業がほぼ終わった1969（昭和44）年の段階で、紛争の影響により廃止が決定された。それを受け継ぐ形で1969（昭和44）年1月に設けられたのが「大学改革準備調査会」で、紛争期の中で提起された諸問題に対応すべく、改革の予備的調査を行う審議機関として設置され、同年10月に報告書がまとめられた。翌1970（昭和45）年1月には教官側の「改革委員会」が設置され、1971（昭和46）年5月に研究・教育体制、管理運営組織、学内規律処分についての答申を提出した。そして、同年7月には、改革の推進・実施のための機関として「改革室」を設置し、教官自己規律、総長・部局長選出の制度などにわたり審議がなされた。これらと並行して1970年中頃以降、入試制度改革、単位互換制度、キャンパス移転、カリキュラム改革など山積していた課題への改革が行われていった。



1970年代初頭の本学改革関係調査報告書類

以上のような一連の委員会や実際の改革については、『東京大学百年史 通史三』の「第六章　東京大学の改革動向」で100頁にわたってまとめられている。本書で用いられた基礎資料は、『総合計画委員会抄録』、『総合計画委員会』綴（六冊）、各専門委員会簿冊、『東京大学改革準備調査会報告書』、『改革フォーラム』（東京大学広報委員会編）、『学内広報』（同編）などであった。また、関係資料は『東京大学百年史 資料編二』「第三部 制度改革の試み」に、上記各委員会の発足の経緯、規定、名簿、報告書、答申などの基礎的資料が収められている。他の大学沿革史をみても、その改革動向は多かれ少なかれ記述されており、例えば『九州大学七十五年史 通史』では、「九州大学大学制度委員会」「将来計画小委員会」による一連の経緯が記され、同書資料編下巻においてそれらの答申や報告類が収められている。これらの記述内容は全体を通して、事実の概略を追った淡々とした印象を受ける。

一方で、『東京大学百年史 部局編』は、各部局で執筆されたこともあり、学部や研究所によって改革動向の記述に差が見られた。例えば、経済学部（部局史一第三編）は1章を割いて紛争後の学部改革について記述しており、教育学部、農学部、工学部、教養学部でも学部改革に関する記述が見られたが、反対に全く記述の見られない学部もあった。また、地震研究所、生産技術研究所、東洋文化研究所、社会科学研究所、宇宙航空研究所などでも所内の改革についての記述が見られた。研究所に関しては、職員待遇の問題が主であったが、「大学のあり方、研究所のあり方が生研なりに強く自ら問わざるを得なかった」（生産技術研究所）というように、紛争の影響を受けての自己点検的な改革論議を含んでいたことが窺える。これらの記述は、そこに携わっていた人々の記述だけに、そして、執筆時期が1970年代であることも影響してか、通史編の記述よりも生々しい印象を受けるものであり、むしろ資料的な価値を有するものといってよいだろう。これらからわかるように、大学の通史として改革を位置づけるだけでなく、各部局における動向について調査することも、改革の内実を研究する上で重要な要素となるであろう。

3.大学関係沿革史蔵書目録の作成

ところで、本プロジェクトはまだ始まったばかりであり、今後、各大学沿革史における改革の記述についての調査から開始するのだが、それに付随する作業として、当史料室に所蔵されている各大学関係沿革史の整理・確認作業を行ったので一応ここで報告しておきたい。

史料室にはその性格上、多数の他大学沿革史が所蔵されているが、それらを目録化する作業はこれまで行われておらず、加えて、かなり散逸していた状況もあった。このことは、単に本プロジェクトの進行に関わるだけでなく、今後の史料室運営にとっても非常に重要であると判断し、この機会に大学沿革史及び旧制高等学校沿革史の所蔵を整理・確認することとなった。まず、東京大学、他の国立大学、公立大学、私立大学、旧制高等学校、その他（植民地下の学校、各種学校、放送大学など）に分類した上で、各沿革史について基礎的な情報をデータベース化した。参考に所蔵数を確認すると、東京大学が131冊、国立大学が246冊、公立大学が19冊、私立大学が293冊、その他の大学が5冊であった。なお、本所蔵目録は2004年3月に刊行する予定である。

4.今後の予定とお願い

今後は、平成16年度以降本格的に着手し、史料室内の所蔵資史料や学内関係部局の資料の調査・収集・整理・分析、さらには学外・関係者所蔵資料の調査、ヒアリングなどを行った上で、大学改革諸案も含めたデータベース化を進めていく予定である。

最後に強調しておきたいのは、情報公開法による文書の保存年限が一般的に30年となっているため、1970年代の改革関係資料はちょうどその対象に当たり、学内関係部署でそのまま廃棄される可能性があるという点である。もし、各部署において廃棄される資料があれば、是非とも史料室の方にご連絡いただき移管をお願いしたい。また、学外の方や退職された方の中で、もし関係資料や情報を所有されている方がいらっしゃれば是非ともご一報いただきたい。

なお、史料室で本プロジェクトに直接従事するのは私（今泉）と畑野勇室員、本プロジェクトの総轄責任者は高橋進史料室長と谷本宗生室員である。

受贈図書一覧（平成15年9月～平成16年1月）

第一高等学校沿革略　ほか一高関係図書・雑誌計18タイトル
一高同窓会

関東学院学院史資料室ニュースレター　No.3
関東学院史資料室　平成15年12月

大学と地域社会の関係史に関する基礎的研究
九州大学史史料室　平成10年３月

駒沢大学禅文化歴史博物館図録
駒澤大学禅文化歴史博物館　平成15年３月

駒大史ブックレット　No.1
駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室　平成15年９月

広島大学高等教育センター30年の歩み
広島大学高等教育開発センター　平成15年10月

高等教育研究叢書　No.75
広島大学高等教育研究開発センター　平成15年９月

コリーグ　No.35, No.36
広島大学大学教育研究開発センター　平成15年10月

史料館報　No.79
国文学研究資料館史料館　平成15年９月

日本図書情報学会創立50周年記念誌
三浦太郎　平成15年10月

戦争と知識人（史料室所蔵写真使用）
山川出版社　平成15年11月

日本統治下の朝鮮北鎮の歴史
酒井敏雄　平成15年９月

彦根高等商業学校収集資料のポリティクス　ほか抜刷計3点
所澤潤　平成15年11月

近代日本中等教員養成に果たした私学の役割に関する歴史的研究
船寄俊雄　平成15年３月

大学アーカイヴズ　No.27+28, No.29
全国大学史資料協議会東日本部会　平成15年10月

早稲田大学大学史資料センター企画展目録
「中野正剛と緒方竹虎」　平成15年９月

早稲田大学史紀要　No.35
早稲田大学大学史資料センター　平成15年10月

中央大学百年史　通史編下巻
中央大学　平成15年11月

近代日本大学制度の成立
中野玲子　平成15年10月

同志社女子大学史料室企画展図録　「広報でみる同支社女子大学」
同志社女子大学史料室　平成15年11月

八雲　創立70周年記念号
内藤初穂　平成11年10月

府立高等学校五十周年記念誌
内藤初穂　昭和54年１月

武蔵八十年のあゆみ
武蔵大学　平成15年９月

名古屋大学大学史資料室ニュース　No.15
名古屋大学大学史資料室　平成15年10月

立命館大学国際平和ミュージアム企画展図録　No.29
立命館大学国際平和ミュージアム　平成15年５月

渡瀬庄三郎によるマングース放獣の謎
梁井貴史　平成14年12月

佛教大学報　No.53
佛教大学　平成15年10月

小杉放菴記念日光美術館企画展図録　計3点
小杉放菴記念日光美術館　平成15年度発行分

日記史料叢書Ⅰ佐久間権蔵日記　第5集
横浜開港資料館　平成15年３月

二松学舎大学東洋学研究所集刊　No.30-33
町泉寿郎　平成15年３月

東京大学史史料室ホームページをご利用ください

東京大学史史料室ホームページをご存知でしょうか。史料室ホームページでは、

■　ご利用案内（史料室規則、閲覧日のご案内）

■　史料室沿革

■　刊行物一覧（『東京大学史紀要』と『東京大学史史料室ニュース』掲載題目ほか）

などがご覧になれます。

この度、「史料室への道順が分かりづらい」という利用者の皆さんの声を受けて、「史料室までの地図」が新しく掲載されました。写真入りの道順ご案内とともに、印刷してご利用できる簡略な地図も載っています。ご来室の際には、ぜひご参照ください。

YAHOOでも検索できます。「東京大学史史料室」を検索語として直接入力していただく他にも、いくつかの入り方がありますが、主な道筋としては

■　大学 ＞ 東京大学 ＞ 図書館、資料館

などを辿ってみてください。

ホームページのURL：

http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/archives/index.htm

史料室日誌抄録（平成15年9月～平成16年1月）

9月10日(水) 総合研究博物館より「学位記展」貸し出し資料返却受ける

9月12日(金) 室員打ち合わせ

9月29日(月) 室員打ち合わせ

9月29日(月) ～10月10日(金)
畑野室員「平成15年公文書館専門職員養成課程」前期受講

10月1日(水) 文献複写用新規様式使用開始

10月14日(火) 奈良県立図書館「戦争体験文庫」に『東京大学の学徒動員・学徒出陣』ほか資料8点を寄贈

10月24日(金) 谷本室員、金沢大学資料館特別展「大学文書館への招待」にて「大学アーカイヴズの役割と活動」講演

11月6日(木) 小川室員「第5回図書館総合展」見学

11月7日(金) 総合図書館から収蔵重複図書移管受ける

11月10日(月) ～11月21日(金)
畑野室員「平成15年公文書館専門職員養成課程」後期受講

11月12日(水) 一高同窓会資料委員辻氏、塚本氏来室。資料寄贈について打ち合わせ

11月25日(火) 谷本室員、創価大学大学論「大学史の中の創価大学」にて戦後新制大学の成立と発展について講義

11月27日(木) 教育学部研究科助手三浦氏、同図書館員山口氏来室、資料整理に関して室員に講習

12月1日(月) 室員打ち合わせ

12月2日(火) 富田洋氏より祖父冨田忠太郎氏卒業記念写真（明治28年医科大学）寄贈受ける

12月5日(金) 『東京大学史史料室ニュース』第31号発送

12月22日(月) 室員打ち合わせ

1月9日(金) 経理部管財課から資料寄託受ける

1月23日(金) 室員打ち合わせ、研究協力部研究協力課から資料移管受ける

1月30日(金) 室員打ち合わせ

題字　森　亘元総長

東京大学史史料室ニュース　第32号

発行日：2004年3月31日（年2回発行）
編集・発行：東京大学史史料室
東京都文京区本郷7－3－1
電話：03（5841）2077（直）
印刷所：株式会社 芳文社
東京都町田市1-18-18

Archives Section of the University of Tokyo